

第2回 令和4年度射水市観光振興計画推進会議 議事録

- 1 開催日時：令和4年11月11日（金）10:00～11:30
 - 2 開催場所：クロスベイ新湊2階 iCN ホール
 - 3 出席者
 - (1) 推進委員
齋藤会長、明石委員、春日委員、久々委員、砂原委員、釣谷委員、大藤委員、田中委員
 - (2) オブザーバー（OBS）
富山県地方創生局観光振興室観戦略課課長（主幹代理出席）
 - (3) 事務局
産業経済部長、産業経済部次長、観光・定住課長、観光振興係員
 - (4) 委託業者
㈱計画情報研究所
 - (5) 欠席者
牛塚副会長、篠田委員、瀧田委員、玉井委員、西本委員、紅粉委員、斉藤委員（代理出席）
-

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 第2次射水市観光振興計画素案（案）について
 - (2) 今後のスケジュールについて
- 4 閉会

■議事

(1) 第2次射水市観光振興計画素案(案)について

(OBS) 27 ページの「射水市に来たのは今回何回目か」という問いに対し①②ともにリピーターが多い。富山県全体の宿泊旅行のリピーター回数で見ると4回目以上が3割、3回目12%程度に比べると非常に高いリピーター率になっているがなぜか。太閤山ランド等、親子連れのリピーターが多いのか。要因があれば教えて欲しい。

(事務局)①は太閤山ランドや道の駅カモンパーク新湊のリピーターが多いと思っている。②も10回以上の割合がある程度あり、リピーター要因はわからないが、太閤山ランド利用者であると考えられる。

(事務局)28 ページの射水市での観光消費額のうち、土産、買物代について0円が6割近くという結果について、考えていかなければいけない。

(委員)消費の案件について①の対象が太閤山ランド、海王丸パーク、道の駅新湊、きつときと市場となっていたが特にきつときと市場は団体の組み込みが大半でその中に昼食もセットされたものが入っている。そのようなセットは含まれているのか、どのような数値の捉え方をしているのか。また、太閤山ランドなどは県民が多く利用するなど利用の趣旨が違うため、それぞれの数字がわかればよい。

(事務局)それぞれの調査場所での数値を表記する。

(委員)50 ページに記載してある「多様なニーズを捉えた観光基盤・受入体制の整備」の「二次交通の充実」の中でべいぐるん、べいかーと、べいとらいく、レンタサイクル、万葉線の活用促進、新幹線駅からの交通手段の検討と事例が記載されているが具体的にどのようなことを考えているのか。

(事務局)べいぐるん、べいかーと、べいとらいくは二次交通の人の足となっているが、観光の素材としても注目を浴びている。新湊地区のまちづくり事業で導入した経緯があるため、小杉地区にも導入して欲しいという要望について現在は検討していない。新幹線駅からの交通手段の検討について、10月から富山駅からぶりにバス、新高岡駅からいみずかへにバスが走っているが、コロナ終息後、市としてどこまで支援していかれるか難しく感じている。新幹線駅からの二次交通が大切なものであるということは計画の中でしっかりと謳っていきたい。

(委員)49 ページの外国人観光客をターゲットとした観光コンテンツづくりについて、実感としてインバウンドは白人が多くなっている。アジア人は購買力が高いが、欧米人はあまりお金をかけず地元の文化に親しむという印象である。今までのように中国人ではなく、

欧米人のような少人数のグループにシフトする等、インバウンドに対する考え方を変えていく必要がある。

(OBS) 富山県では令和6年に北陸新幹線敦賀延伸、秋には北陸デスティネーションキャンペーンがある。さらにインバウンドの水際対策が緩和されたことや、将来的に人口減少があることは大事な観点である。デスティネーションキャンペーンやインバウンドに向けて受け入れ体制の整備や、観光資源の磨き上げが大切になる。インバウンドは白人が増えているとのことで英語の対応が必要である。街中に英語さえあれば観光客は動けるため、英語の整備が重要である。県としても力を入れるべきと考えており、射水市と連携して強化していきたい。

(委員) 2024年から新幹線敦賀延伸を予定しており、その効果を最大限に発揮するために北陸デスティネーションキャンペーンを秋に3県合同で実施する。北陸への集客効果がみられ同様に効果があると考えており、いかに地元の方と連携するかが大事になってくる。

(委員) 旅行形態が団体旅行から個人グループへ変わってきている。できれば、そのような個人グループへの変化があることと、個人・グループ向けの情報発信を強化していくという視点を計画の中に盛り込んでいただきたい。

(委員) 新幹線駅からの二次交通も大切だが、小杉駅から新湊エリアへのアクセスや、ぶりにバスの夜間運行があってもよいのではないかと考えている。

(委員) 50ページに「観光ガイド等の人材育成」とあるが、射水といえばという有名なグルメや体験など、ただ情報発信をするだけではなく、フォトグラファーのイナガキヤスト氏の写真や、各方面のインフルエンサーの情報など SNS も活用しながら、様々なテーマに応じて観光案内ができる人材の育成が大切である。また、10~20分程度で体験できるものが必要だと感じる。観光コンテンツを考えるときには様々な切り口からやってもらいたい。

(事務局) 行政として体験コンテンツをもっと作りたいとは思っている。何を体験とするか、観光資源の見直し・発信についても、何をどう推していくか、が課題であったが、今あるものを活かすだけでも体験の1つになるのだと感じた。どのように旅行者のニーズに合わせて宿泊施設や体験を紹介するのが良いか、どういう風に情報発信していくか、という事についても教えてもらえるとありがたい。

(委員) ポストコロナ後の観光のあり方も変わってきていると思う。これまでは数字で観光客数、乗客数、ホテル宿泊人数から KPI を掲げて戦略にしていたが、ポストコロナ後は住民の満足度をベースに持続可能な観光になるような政策を取り始めている。例えば、通常は入れない神社仏閣の中に入る体験をすることで日本の歴史文化、射水市の背景をスト

一リー立てて聞く事により付加価値を加えることができればお金を落としてもらうことにつながるのではないか。持続可能な観光の観点で検討していただけるとありがたい。

(2) 今後のスケジュールについて

(委員からの意見なし)

(事務局) 素案を見直していく。次回は1月のパブリックコメントを反映した上で会議を行う予定。
本日はご出席いただきありがとうございました。